

医療通訳シンポジウム in 川崎2018

# 外国語医療通訳

— 神奈川県での取組みを中心に —



mic かながわ

NPO法人MICかながわ

岩元陽子

# MICかながわについて

**【設立】 2002年4月**

**【事業】 医療通訳派遣**

(約70病院に年間約7,000件・・・約30人の通訳/ 1日)

**【登録通訳】12言語で185名**

英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国朝鮮語、  
タガログ語、タイ語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、  
ロシア語、フランス語

# 今日お話しすること

## ① 外国人医療と外国語医療通訳について

- ◆ 「外国人」とは？
- ◆ 医療通訳のあゆみと課題

## ② 神奈川県での取組みについて

- ◆ 「かながわ医療通訳派遣システム」の特徴
- ◆ 通訳を独自に雇用している病院、定期配置している病院

## ③ 医療通訳に医療知識が必要な理由

- ◆ 外国語医療通訳の研修カリキュラム紹介
- ◆ 医療知識はなぜ必要か？

# 外国人とは？

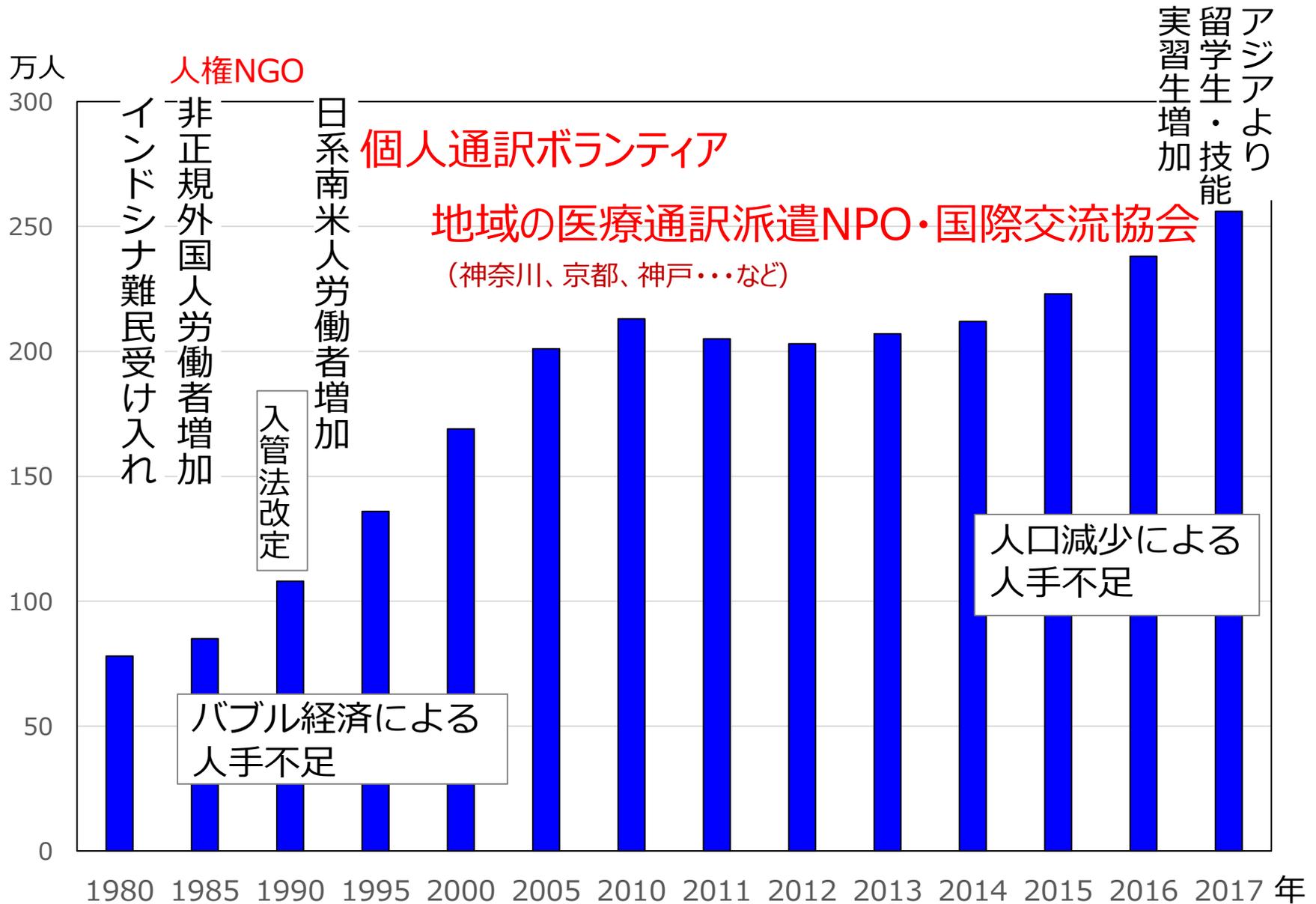
**訪日外国人・・・日本に一時的に滞在する外国人**  
(観光、ビジネス、親族訪問など)

**在住外国人・・・日本に住んでいる外国人**

- 2018年現在、256万人。
- 国籍は180カ国以上。言語の数は？
- 各々の国や地域や民族に、固有の文化がある。
- 日本語がどれくらいできるかは、滞在年数や個人差で様々

**⇒少なくとも30～40%の人は、1人で病院に行くのは困難**

# 在住外国人の増加と草の根支援活動



# 訪日外国人数の推移と政府の対応

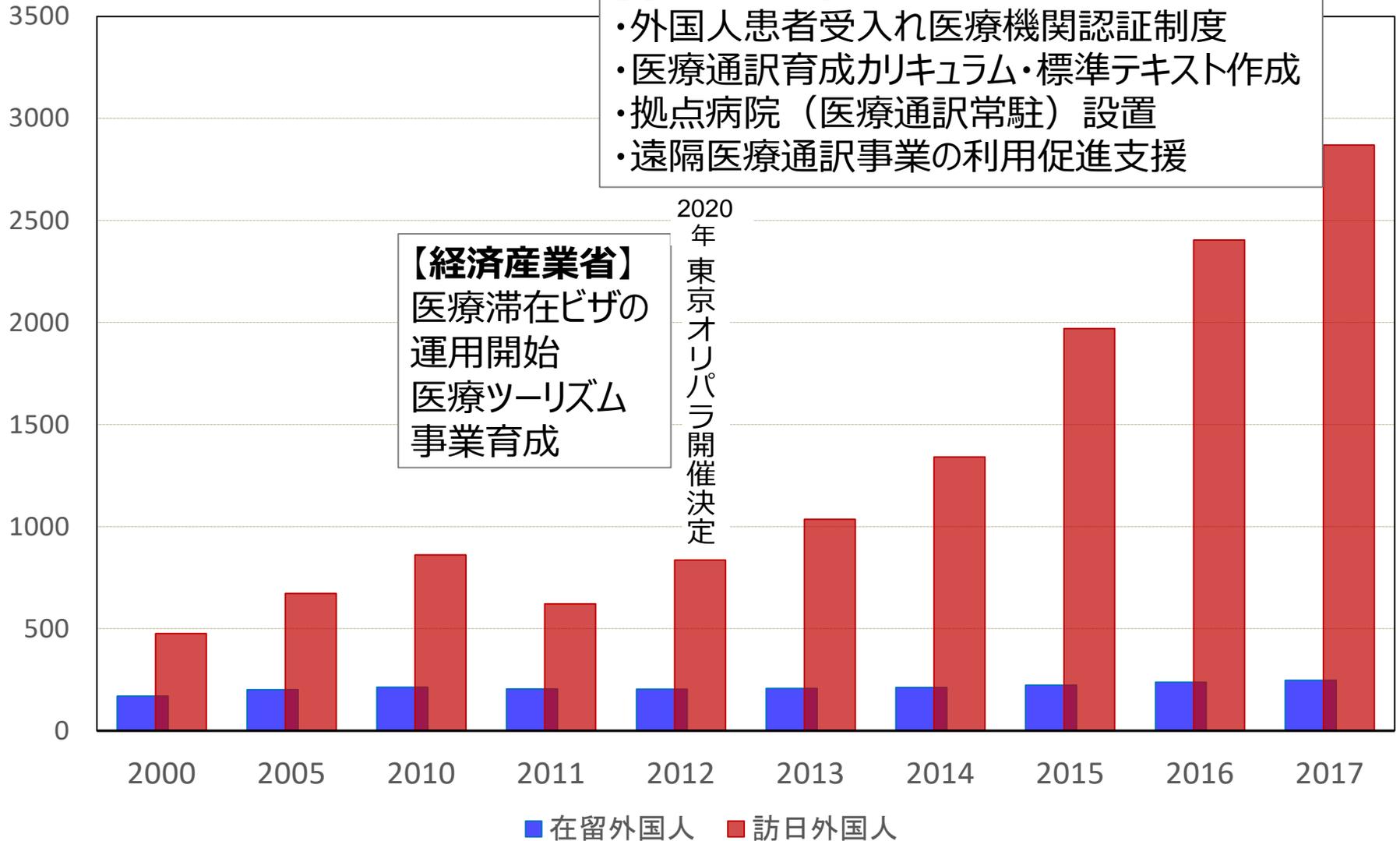
**【観光庁】**  
外国人旅行者受入れ可  
の病院リスト作成掲載

**【厚生労働省】**

- ・外国人患者受入れ医療機関認証制度
- ・医療通訳育成カリキュラム・標準テキスト作成
- ・拠点病院（医療通訳常駐）設置
- ・遠隔医療通訳事業の利用促進支援

**【経済産業省】**  
医療滞在ビザの  
運用開始  
医療ツーリズム  
事業育成

2020  
年  
東京オリパラ  
開催決定



# 外国語医療通訳の課題

## ① 少数言語通訳の確保が困難

**本来は母語の通訳が望ましい！！**

が、言語の数が多いのでむずかしい。

※ 人口が多く、“少数”とは言えない国の言語でも、通訳者が圧倒的に不足

**【理由】 医療通訳の報酬が低く、成り手がいないため**

- 日本人の通訳者は英語では多いが、他の言語では少ない。
- ほとんどがネイティブ通訳(母語話者)という言語では、ボランティアをする余裕のある人は限られてくる。

# 外国語医療通訳の課題

## ② 医療機関の理解不足

患者に自分で言葉の分かる人を連れてくるよう求める⇒家族や友人の通訳

## ③ 通訳費用を誰が負担するか？

「受益者は患者なのだから、患者が負担すべき」

「地域の外国人住民への公的サービスとして、行政が負担すべき」

「医療サービスの一環なら、保険財政に組み入れられるべき」

「医療機関が負担すると、『利益の持ち出し』になってしまう」

※日本語の不自由な外国人に対する「差別禁止」や「言語保障」を謳う国内法がない

⇒ **行政が通訳料の予算を継続的に確保するのが困難**

# 医療通訳先進国の米国では・・・？

医療における言語サポートが権利として保障されている

公民権法Civil Rights Act (1964)

「連邦政府の補助を受けているプログラムや活動においては、人種、肌の色、出身国を理由に差別されてはならない」

クリントン大統領令13166号 (2000)

「連邦政府の補助を受けている機関では、英語能力が限られた人でも平等にサービスにアクセスできるような仕組みが策定されなければならない」

**医療訴訟を回避する意味でも、医療機関は積極的に通訳を利用する。**

# 日本における外国人と医療－MICの考え－

## 【背景】

- 日本では、「入国管理法」の下、外国人は「在留資格」に基づいて日本に住むことができる。
- 在留資格（27種類）には各々期限があり、期限延長が認められない場合は「不法滞在」となり、国外退去になる。
- 在留資格なく滞在している外国人は数万人。無保険のため、医療を受けること自体が困難で、深刻な人権侵害状態にある。
- そのような外国人を支援する団体は、この法律と格闘しなければならないことが多く、弁護士などの専門家が加わることになる。

## 【MICの立場－医療の分野で－】

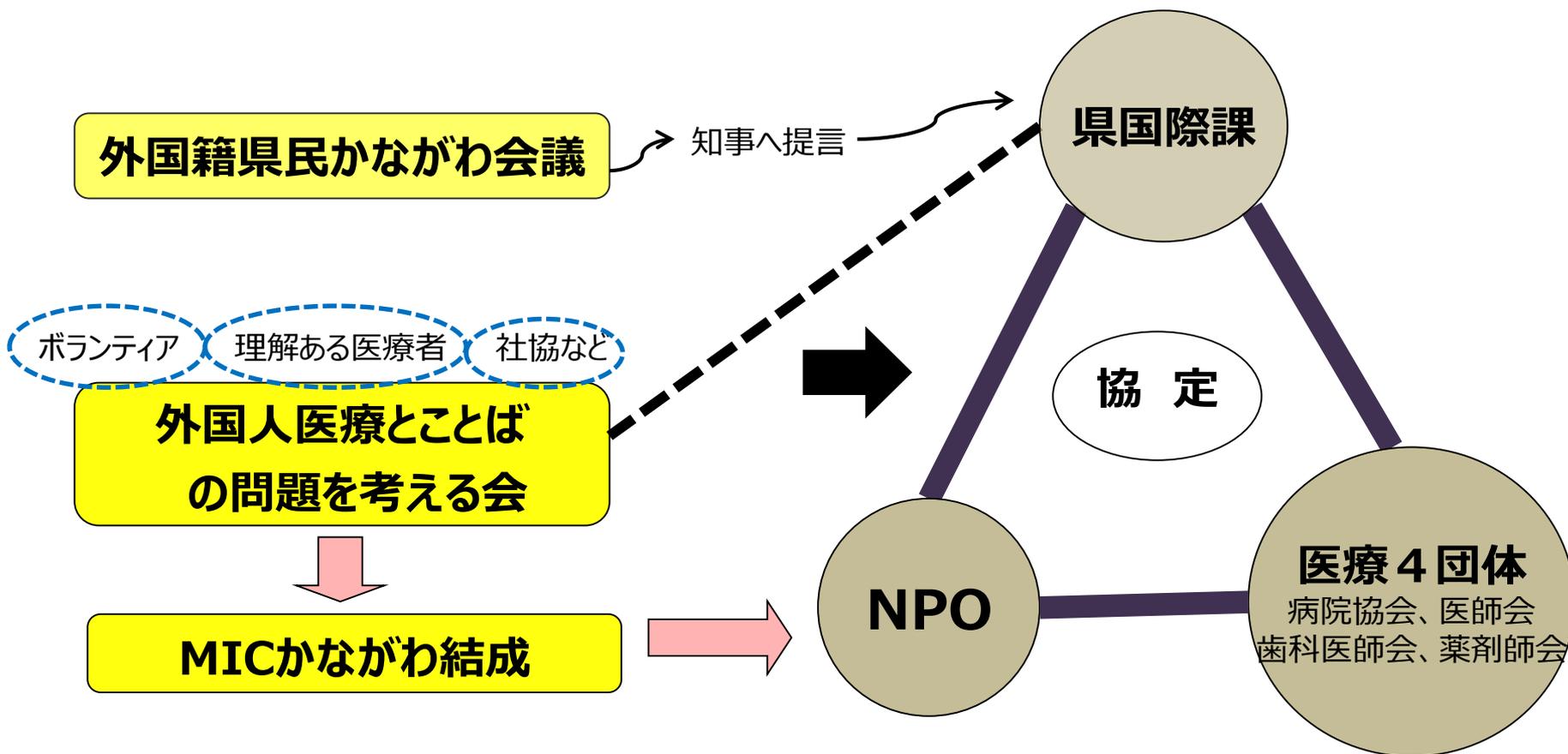
「誰もが病気やけがの時、適切な医療を受ける権利がある。言葉の壁や経済的理由などで、その権利が奪われることがあってはならない。」

⇒ **医療通訳の制度化へ**

# 神奈川県の実施

## 「かながわ医療通訳派遣システム」発足の経緯

- ① 支援者のネットワーク化 → 医療通訳研修やガイドライン作り
- ② 外国人当事者の声 → 知事への提言 → 行政・民間・医療団体の協定の下、制度化へ



# かながわ医療通訳派遣システムの特徴

## ◆ 行政(神奈川県国際課)と民間(MIC)の協働事業

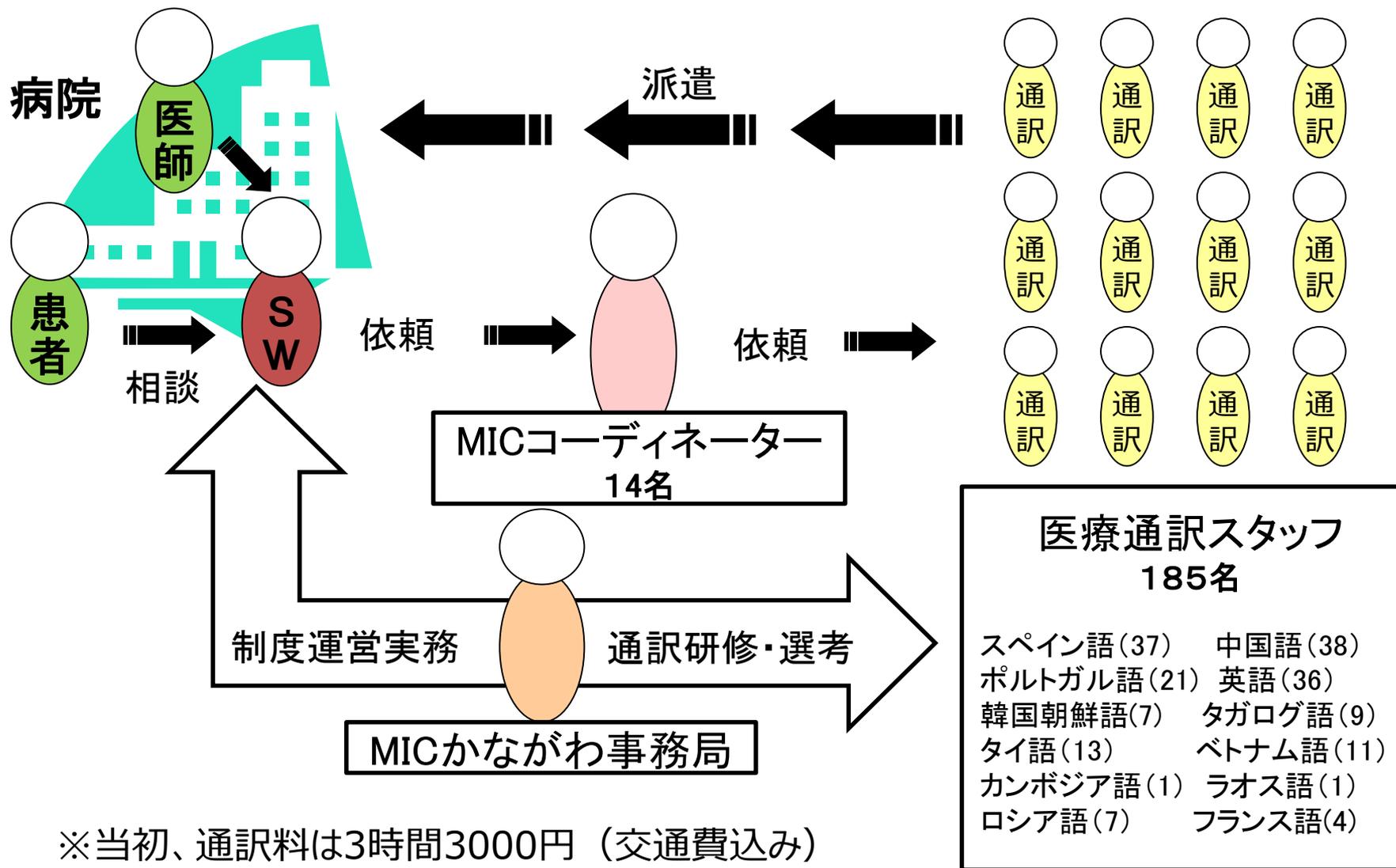
＜役割分担＞

### 【行政】 事業基盤整備

- 通訳の身分保障 = 県の委嘱
  - MICの研修を受けて登録された通訳者の「質」を保証
- 財源確保
  - 特に当初の派遣費用
- 協定病院の開拓
  - 通訳を受け入れる病院を選定

### 【NPO】 医療通訳者の養成研修と派遣実務

# かながわ医療通訳派遣システム ー派遣の流れー



※当初、通訳料は3時間3000円 (交通費込み)  
 現在、2時間3000円+消費税 (交通費込み)

2018年4月現在

# 通訳を依頼するのは誰か？

## かながわの制度では「患者」ではなく「医療機関」 —その理由—

### ① 医療機関に自覚をもってもらうため

言葉の壁がある患者に適切な医療を提供するには、通訳が不可欠。  
医療機関が責任をもって通訳を用意してほしい  
⇒医療機関によるコスト負担

### ② 通訳者を守るため

万が一の「誤訳による医療事故」に備え、MICの通訳者を当該医療機関の準スタッフと位置づけ、病院賠償責任保険でカバーしてもらう。

# 通訳を依頼するのは誰か？

## —協定病院との連携—

### ① 通訳者が現場で困った時に相談できる窓口

医療者と患者の関係が悪化して通訳が板挟みになったとき、患者から重大な話を打ち明けられたとき・・・などなど。

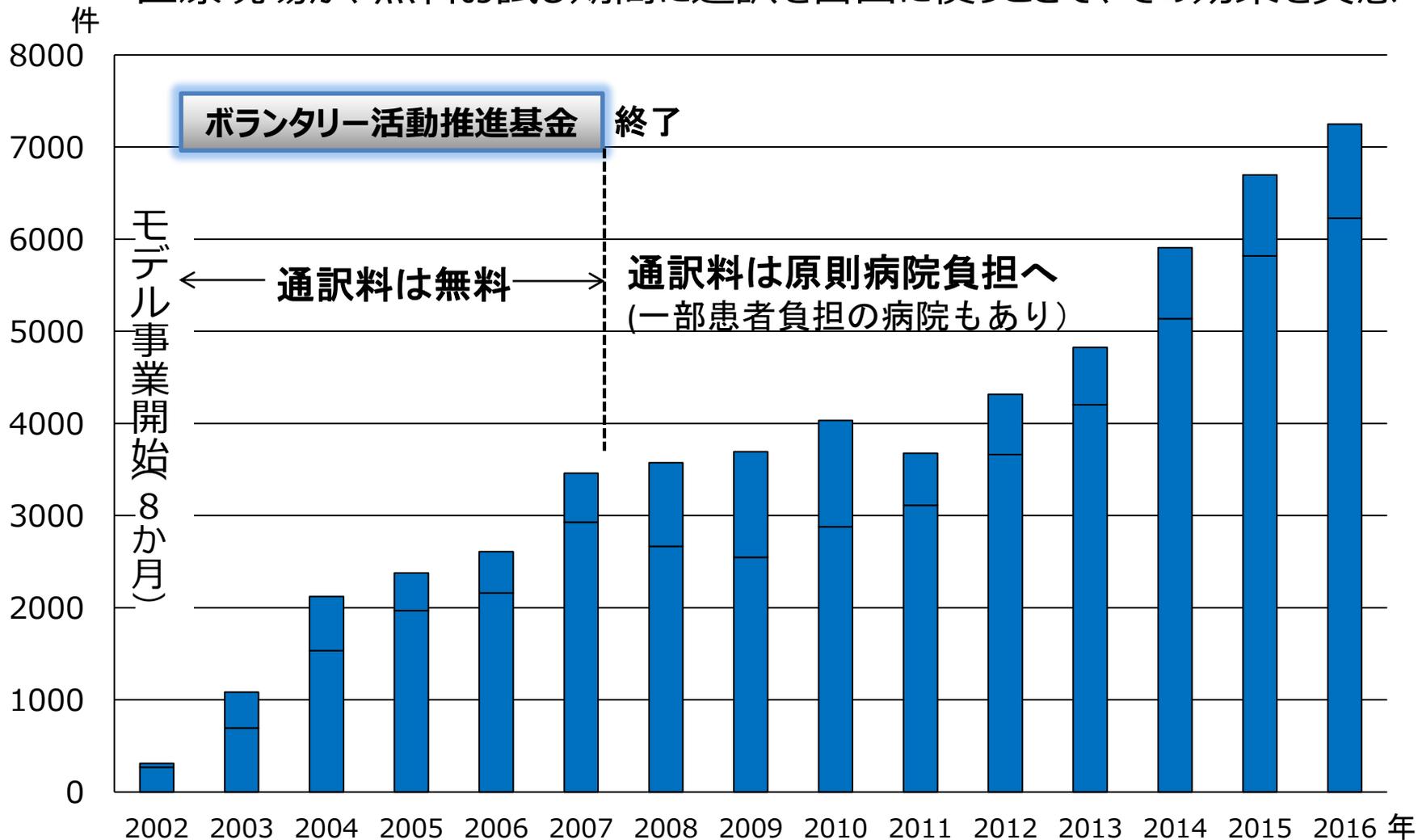
院内で通訳者の相談を受けとめてくれる窓口がはっきりしていると助かる。

### ② 事前情報の提供のお願い

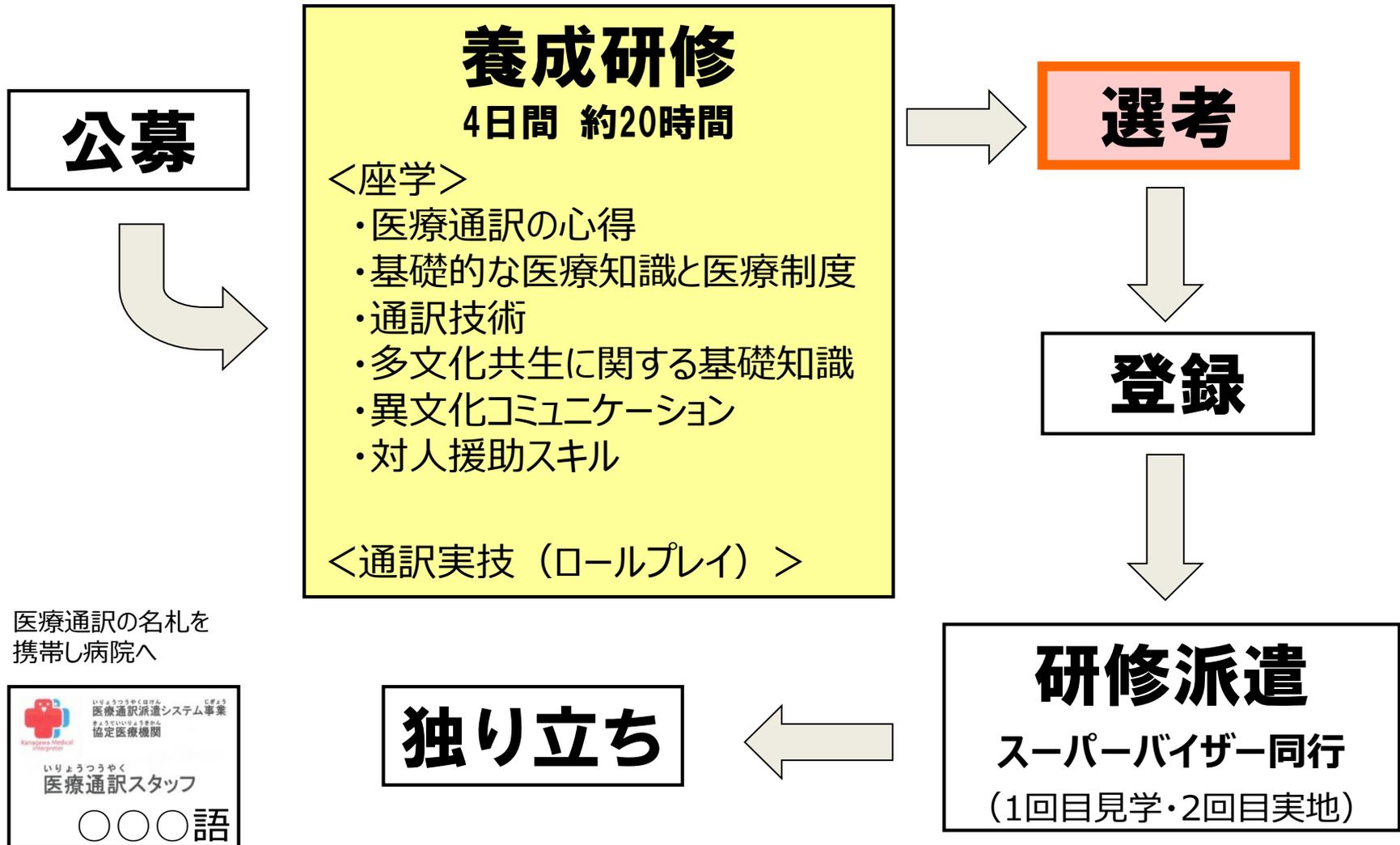
医療通訳者は「医療」の専門家ではないため、事前準備が不可欠であることを理解していただき、病名など最低限の情報提供をお願いする。

# かながわ医療通訳派遣システム – 派遣数の推移 –

医療現場が、無料お試し期間に通訳を自由に使うことで、その効果を実感



# —通訳の効果を実感してもらうために— MICの医療通訳新人養成研修



## 登録後も勉強を続けます・・・



全体研修：糖尿病について（2014年1月）

### 全体研修・・・年3回

- 医療知識に関する講義
- 医療通訳の心得の確認
- グループワーク



言語別の勉強会（中国語）

### 言語別勉強会・・・毎月または隔月

- 医療知識、ロールプレイ
- 事例研究

# 通訳が常駐または定期配置されている病院

通訳常駐(雇用)の場合は、自分の通訳言語での通訳の他、外国人患者全体が受診しやすい環境を整えるための院内調整を行っている。

患者数が多いため、**1人の患者に最初から最後まで付き添うことがむずかしい**。通訳が必要な場面で呼び出されて通訳したら、すぐに次の患者のところに行かなければいけない場合もある。

※派遣通訳は一貫して付き添うので、患者は安心し、心配事を相談しやすい。

## 手術室への通訳者の同行

常駐または定期配置の通訳だけでなく、派遣通訳も立ち会うことがある。

# 通訳者の手術立ち会い

## 部分麻酔で患者に意識がある場合に限られる

例) 帝王切開、眼科の白内障手術など

病院からの手術立ち会い依頼は・・・

- **患者と簡単なコミュニケーションも取れないことへの医療者の不安**  
(動作の指示、質問への答)
- **文化の違いなどによる予期しない患者の反応に対する医療者の不安**
- **外部通訳も内部通訳も基本的に同じ**
  - 病院が必要と判断すれば通訳を依頼するという方法が確立しているから
- **患者からの通訳同席希望**
  - 基本的には病院側の判断次第で、患者の希望がそのまま受け入れられるわけではない。

# 医療通訳に「医療知識」はなぜ必要か

**厚生労働省の標準カリキュラム**（病院実習を除いて全82.5時間）

「医療と医療制度に関する講義」が24時間

・解剖生理学、検査、薬、保健衛生、制度に関する基礎知識

**MICの新人養成研修**（全20時間）

「医療と医療制度に関する講義」が3.5時間

・基本的な体のしくみ（〇〇系・・・）・疾患の基礎知識（炎症、腫瘍・・・）

その他、演習（ロールプレイ）において

①シナリオの中に出てくるキーワードを事前に提示

⇒ 訳語を調べ、準備する練習

②現実の派遣依頼と同様に、事前情報（診療科、病名、症状）を提示

⇒ 事前情報をもとに通訳する際に必要な用語を想定し、準備する練習

登録後は、年3回のフォローアップ研修（主に医療知識の講義）

# 医療通訳に「医療知識」はなぜ必要か

## 外国語通訳では、「医療用語」そのものがまず大事

事例① タイ語：予防接種における「卵アレルギー」

事例② スペイン語：腎不全患者と「透析」

ただし・・・

● 専門家が使う言葉 vs 一般人が使う言葉

⇒ その国で一般的に使われる言葉は知っておく必要がある

事例③ スペイン語：「免疫」

# 医療通訳に「医療知識」はなぜ必要か

## 外国語通訳では、「医療用語」そのものがまず大事

- その国の言語において、一般レベルで該当する言葉がない場合  
或いは、その病気に関する知識が一般的に浸透していない場合

⇒ **日本語の医療用語の中味を説明する、言い換える**

**1) 医師に説明してもらい、それを訳す**

**2) 通訳者の方から「こう訳してもよいか」と確認して訳す**

# 医療通訳に「医療知識」はなぜ必要か

## 医療通訳の鉄則 「足さない」「引かない」「変えない」

- 「変えない」= 話し手の「メッセージ」を忠実に伝える≠直訳
  - そのためには、医療用語を含め、話の内容を正確に理解する必要がある。
  - **理解するためには、「知識」が不可欠！！**
- 専門用語の訳語だけ覚えても中味を知らなければ、全体を適切に訳せない。  
専門用語を正確に訳しても、患者が理解できなければ意味がない。  
  
⇒ 2つの言語で資料を読む。  
特に対象言語で一般人向けに書かれた資料は参考になる。

# 医療通訳に「医療知識」はなぜ必要か

## 外国語医療通訳： 逐次通訳

- ひとまとまりの文章を訳すときは、頭の中で内容が整理されていなければならない。
  - 「知識」があれば、余裕をもって訳すことができる。

## 外国語医療通訳： 文化的介入

進行がんの患者に「手術は難しいです」と医師が言ったとき・・・

# ご清聴ありがとうございました



中外製薬「からだのしくみ」

<https://chugai-pharm.info/medicine/karada/index.html>